令和6年度第1回
札幌市障がい者施策推進審議会

会 議 録

日 時：2024年11月1日（金）午後1時30分開会
場 所：札幌市役所本庁舎 12階 2号会議室

1. 開 会

○事務局（布施事業計画担当係長） 皆様、お疲れさまでございます。

開会に先立ちまして、まず、傍聴される皆様へ事務局より注意事項をお伝えいたします。

この会議は、委員の方の議論の場でございますので、傍聴の方は発言ができません。録音、録画等もお控えください。

Z o o mによる参加の方は、カメラをオフ、マイクミュートとしてください。

また、会議に対するご意見、ご感想につきましては、意見参加シートにご記入の上、事務局までご提出ください。

続いて、委員の皆様をお願いがございます。

本日は、オンラインでご出席いただいている方がいらっしゃいます。このため、ご発言の際には、発言者が分かるよう、挙手あるいはご発声によりお知らせいただき、司会を進行する者から、お名前を呼ばれた後に発言していただきますようお願いいたします。

また、発言者が分かるように、ご発言の前にご自身のお名前を名のっていただき、発言内容が分かるようにゆっくりお話してください。

発言の中で分からない言葉がございましたら、ご遠慮なくお知らせください。

また、本日は議事録作成のため、有限会社札幌速記事務所の方が参加しております。議事録作成のために録画、録音させていただきますため、あらかじめご了承ください。

事務局からは、以上になります。

○事務局（高松企画調整担当課長） 本日は、お忙しい中をご出席いただき、誠にありがとうございます。

ただいまより、令和6年度第1回札幌市障がい者施策推進審議会を開催いたします。

私は、障がい福祉課企画調整担当課長の高松でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議の時間は1時間半程度を予定しておりますけれども、会議の進行状況によっては若干前後することが予想されます。恐れ入りますが、ご承知おきくださいますようよろしくお願いいたします。

なお、本審議会は、公開とさせていただきます。本日は、2名の方が傍聴されていらっしゃいますので、ご報告させていただきます。

◎委員紹介

○事務局（高松企画調整担当課長） 続きまして、本日出席されている委員の皆様をご紹介させていただきます。

次第の裏面に記載されております名簿順に所属をお呼びさせていただきますので、一言、ご挨拶をお願いいたします。

なお、会場でご参加の委員におかれましては、着座のままご挨拶をいただきますようよろしくお願いいたします。

札幌市身体障害者福祉協会会長の浅香委員です。
札幌市精神障害者回復者クラブ連合会会長の石山委員です。
札幌公共職業安定所統括職業指導官の上田委員です。
札幌市社会福祉協議会地域福祉部長の大石委員です。
社会福祉法人楡の会元理事の加藤委員でございます。
札幌市視覚障害者福祉協会会長の近藤委員です。
札幌市精神障害者家族連合会会長の菅原委員です。
北海道難病連相談課長の鈴木委員でございます。
札幌市民生委員児童委員協議会理事の高柳委員です。
札幌市手をつなぐ育成会会長の長江委員です。
札幌市中途失聴・難聴者協会会長の花田委員です。
北海道立心身障害者総合相談所所長の人見委員です。
札幌市立豊明高等支援学校校長の益満委員です。
北海道教育大学札幌校教授の安井委員です。
NPO 法人札幌肢体不自由児者父母の会会長の山内委員です。
札幌司法書士会司法書士の山代委員です。

なお、本日は、中原委員と柳川委員から、所要のため欠席とのご連絡をいただいております。

したがいまして、本日は、16名の委員にご出席していただいておりますことから、札幌市障がい者施策推進審議会条例第7条第2項によりまして、出席者が委員の過半数を超えておりますので、会議が成立することをご報告いたします。

◎事務局紹介

○事務局（高松企画調整担当課長） 続きまして、事務局を紹介いたします。

札幌市保健福祉局障がい保健福祉部長の成澤です。

障がい福祉課長の立野です。

自立支援担当課長の渡邊です。

障がい福祉課事業計画担当係長の布施です。

その他、関係職員が出席しております。どうぞよろしく願いいたします。

◎資料の確認

○事務局（高松企画調整担当課長） 続きまして、お配りしております資料の確認をお願いいたします。

事前にお送りしている資料は、資料1と資料2となっております。

お手元の次第に配付資料の一覧を記載しておりますので、併せてご確認ください。

◎障がい保健福祉部長挨拶

○事務局（高松企画調整担当課長） それでは、開会に当たりまして、障がい保健福祉部長の成澤よりご挨拶を申し上げます。

○成澤障がい保健福祉部長 皆様、大変お世話になっております。

障がい保健福祉部長の成澤でございます。どうぞよろしく願いいたします。

日頃から、障がい保健福祉施策の推進にご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

ご承知のとおり、この審議会は、障がい者施策の総合的、計画的な推進をご審議いただく機関としまして、昨年度の4月から、さっぽろ障がい者プラン2024を集中的にご審議いただきまして、2024年から滞りなくスタートしているところです。改めまして、感謝を申し上げます。ありがとうございます。

本日は、前のプランのさっぽろ障がい者プラン2018の最終年度、2023年度の進捗状況のご報告をさせていただきます。

それと、もう一つが障がい者就労施設等からの物品あるいは役務、サービスの調達について、優先的に市役所で発注しておりますので、その状況を報告させていただきたいと思っております。

いずれにしましても、皆様方は様々なご知見をお持ちですので、忌憚のないご意見を頂戴して、またさらに改善等をして、障がい者施策を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（高松企画調整担当課長） 大変恐縮でございますけれども、成澤は、別の用務のため、ここで退席させていただきます。

[障がい保健福祉部長は退席]

○事務局（高松企画調整担当課長） それでは、ここからの進行は浅香会長にお願いしたいと思っております。

なお、議事に入る前に、浅香会長から一言ご挨拶をしていただいた上、引き続き、進行していただければと思います。

浅香会長、どうぞよろしく願いいたします。

2. 議 事

○浅香会長 皆さん、こんにちは。

本日、進行を務めさせていただきます浅香と申します。

まず、会議の進め方について確認いたします。

冒頭に事務局からも案内がありましたが、ご発言の際には、発言者、発言内容が分かるよう、なるべくゆっくりお話ししていただきたいと思っております。

また、発言の中で分からない言葉などがありましたら、どうぞご遠慮なくお知らせください。

それでは、議事に移りたいと思います。

議題（１）の審議事項、さっぽろ障がい者プラン２０１８ ２０２３年度の進捗状況についてです。

資料１に基づいて、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（高松企画調整担当課長） それでは、私から、２０１８年３月に作成いたしましたさっぽろ障がい者プラン２０１８につきまして、２０２３年度の１年間、どのような取組が進んだのか、ご報告させていただきます。

お手元の資料１のさっぽろ障がい者プラン２０１８－２０２３年度進捗状況報告書ーをご覧ください。

時間の関係上、全ての事業を詳細にご説明することはできませんけれども、プラン全体の進捗の総括として、成果目標の進捗状況及びプランを掲げている１０の分野につきまして、代表的な事業の進捗について簡単にご説明いたします。

まず、表紙をおめくりいただきまして、１ページ目、札幌市の現状と障がいのある方の人数の推移を記録しております。

グラフから、身体障害者手帳をお持ちの方はほぼ横ばい、療育手帳や精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は増加傾向にあることが分かります。

続きまして、３ページ目でございますけれども、療育手帳の等級別所持者数が記載されております。

特に、Ｂバー、軽度の障がいのある方が増加している傾向がございます。

続きまして、４ページ目の精神障害者保健福祉手帳の所持者でございます。

２級、３級が増加傾向でございます。

続きまして、５ページ目の難病患者数についてです。

受給者証をお持ちの方の推移を見ますと、制度の改正があり一概には言えませんが、長期的に見てみるとおおむね増加傾向となっております。このことから、支援を必要とされる障がいのある方は、年々増加していることが考えられます。

次に、成果目標について、９ページをご覧ください。

成果目標の進捗状況についてご説明いたします。

さっぽろ障がい者プラン２０１８に定める成果目標は、国の基本指針で示された目標をベースにしつつ、札幌市の実情に踏まえて定めています。それぞれの目標値は、プランの一部改正時の２０２１年３月から３年後の２０２４年３月末時点での目標として、各項目の右横、目標という欄に記載しております。

目標の成果については、本来であれば２０２３年度末で判断するものですが、一部の項目について、数値の算出に必要なデータが未着なものが、判断ができない状況にあることから、最終的な達成状況につきましては、次回以降の審議会において報告させていただきます。

本日は、現時点で判明している進捗についてご説明いたします。

まず、2行目、入所施設の入所者数の減少についてですけれども、目標値として3年間で110名の減少を見込んでおりましたが、2023年度末時点で140名の減となっており、さっぽろ障がい者プラン2018の目標値を達成しております。

目標値については、2024年3月に策定いたしましたさっぽろ障がい者プラン2024においても目標値として位置づけられておりますから、引き続き目標達成に向けて取り組んでまいります。

次に、3行目の地域生活支援拠点等の整備及び機能の充実についてですけれども、札幌市においては、地域生活支援拠点等を確保するとともに、その機能の充実のため、年1回以上、運用状況を検証しております。

こちらにつきましても、さっぽろ障がい者プラン2024において成果目標と位置づけられているため、引き続き効果的な支援体制の構築を進めてまいります。

次に、下から3行目、医療的ケアを必要とする障がいのある子どもへの支援についてです。

2018年度に関係機関等が連携を図るため協議会の場を設置しており、医療的ケア児支援育成研修の充実やサポート医師の配置などによって、コーディネート機能を構築しております。

こちらも、さっぽろ障がい者プラン2024の成果目標として位置づけられていることから、引き続き支援の推進に取り組んでまいります。

次に、下から2行目、障がい福祉サービス等の質の向上を図る取組についてです。

事業所支援の取組を推進するため、障がいサービス等に関わる各種研修の実施、障がい福祉人材の確保、定着、サポート事業の実施など、確実に推進しております。

障がいのある方にとって地域で暮らしやすいまちであると思う障がいのある方の割合につきましては、さっぽろ障がい者プラン2024においては目標値として設定しておりませんが、プラン策定の目標として位置づけております。

具体的には、心のバリアフリーの理解度の目標数値の達成に向けて、障がい理解を進めるための取組を中心に進めております。

続きまして、各種取組の進捗状況についてです。

10ページ目以降に、プランにおいて重点取組と位置づけられた各種事業について、2021年度の実績を記載しております。

このプランでは、計10個の分野を設定し、それぞれの分野ごとに事業を位置づけております。10個の分野は、横断的4分野と施策6分野で構成されております。まず、4つの横断的4分野は、障がい福祉施策を進める基本となるもので、札幌市が全庁的に取り組んでいくべき分野です。6つの施策6分野は、暮らしの支援、雇用・就労の促進、障がいのある方へのニーズに応じた分野です。

本日は、各分野の代表的な事業について、2023年度の状況をお伝えいたします。

初めに、横断的4分野1、障がい等への理解促進についてです。

10ページをご覧ください。

ヘルプマーク、ヘルプカードの普及事業についてです。

外見上、障がい分かりづらい方にお持ちいただくヘルプマーク、ヘルプカードは、昨年度1年間で、区役所や地下鉄駅等の窓口において1万6,000個を配布いたしました。

次に、13ページをご覧ください。

障がい当事者の講師派遣は、当事者の方を学校や企業に派遣して研修を行う事業です。

派遣回数136回、派遣講師延べ人数は293名、受講者延べ人数は7,704名と、多くの方に当事者のお話を伺う機会を提供しております。

次に、15ページをご覧ください。

横断的分野2は、生活環境の整備ということで、安心して快適に暮らせるまちづくり、バリアフリーに関する事業を掲載しております。

このページに記載している福祉のまちづくり推進会議において、公共的施設のバリアフリー化について協議いただくとともに、札幌市が新たに公共的施設を建築する際には、バリアフリーの状況をチェックしていただくなどしております。

次に、24ページをご覧ください。

横断的分野3として、アクセシビリティの向上・意思疎通支援の充実を掲げております。

これは、障がい特性に応じたコミュニケーションを取りやすい環境を目指すもので、コミュニケーション支援機器、主に視覚障がい者の方のため、タブレット端末や補聴器での聞き取りを補助する磁気誘導システムを区役所に導入しております。

次に、34ページをご覧ください。

横断的分野4は、障がいを理由とする差別の解消・権利擁護についてです。

障害者差別解消法の啓発をはじめ、権利擁護に関する取組を掲載しております。

札幌市共生社会推進協議会の開催により、関係機関と相談事例を共有するなどの取組を進めているほか、市役所の職員に対しては、障がいのある方への配慮について学ぶ研修の中で、より一層の周知を進めているところでございます。

次に、43ページをご覧ください。

ここからは、施策分野として、障がいのある方の生活の場面やニーズ対応について設定した分野について掲載しております。

まずは、施策分野1の暮らしの支援として、地域で安心して暮らせる支援体制について記載しております。

具体的な事業といたしましては、相談支援事業の充実でございます。

19か所の相談支援事業所で相談対応を行っており、支援件数は15万7,721件となっております。

次に、57ページをご覧ください。

施策分野2の保健・医療の推進として、身近な地域で安心して適切な医療が受けられるよう、医療体制の充実に関する事業を掲載しております。

代表的なものとして、67ページをご覧ください。

さっぽろ子どもの心の診療ネットワーク事業は、心の問題を抱えている子どもについて、学校や市民などから依頼を受けて、適切な医療機関を案内するものです。

2023年度の利用件数は、1,027件となっております。

次に、72ページをご覧ください。

施策分野3の療育・教育の充実です。

切れ目のない支援の提供に着目しながら、療育の充実、学校教育の体制などを中心に掲載しております。

74ページをご覧ください。

下段の障がい児地域支援マネジメント事業は、児童発達支援センターに配置した障がい児地域支援マネージャーが、児童の療育の方法について、障がい児通所支援事業所への支援や助言をするものでございます。

昨年度は、計8名のマネージャーが累計726回の訪問をして、療育の質の向上に向けて支援を行っているところでございます。

続きまして、86ページをご覧ください。

施策分野4の雇用・就労の促進です。

具体的な事業といたしましては、札幌市独自に障がい者就業・生活相談支援事業に取り組んでおります。

92ページをご覧ください。

下段に、障がい者施設等からの優先調達への推進とありますけれども、これは札幌市役所全体で物品等発注する際に、障がい者施設に優先的に発注する取組でございます。本日、議題（2）で報告させていただく内容となっております。

続きまして、93ページをご覧ください。

施策分野5のスポーツ・文化の振興です。

障がいのある方がそれぞれの興味や関心に応じて様々な活動ができるよう施設等での環境整備を進めており、活動の機会を増やしたり、障がい理解を幅広く促進するという事業を掲載しております。

次に、100ページをご覧ください。

施策分野6の安全・安心の実現です。

日頃からの防災対策や障がい児の避難をサポートする取組を中心に、障がいのある方が安心して暮らせる支援体制に関する取組を掲載しております。

例えば、105ページに記載しております誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート事業では、災害時に障がいのある方たちの避難を支える町内会などにコーディネーターを派遣して、どのような支援体制を整えていくのかの助言などを進めており、昨年度1年間で78件を支援しております。

駆け足の説明となり大変恐縮ですけれども、以上が2023年度1年間の主な取組につ

いてでございます。

全てをご説明することはできませんけれども、他の事業につきましては、後ほど見ていただければと思います。

なお、最後の109ページから掲載しているのは、各サービスの見込量の進捗状況です。計画策定時に想定した各サービスの利用者数など、2023年の実績値、つまり実際にどの程度の利用者数があったのかを記載しております。こちらについても、時間の関係上、説明を割愛させていただきます。

長くなりましたけれども、2023年度の進捗状況の説明でございます。

私からの説明は以上です。よろしくお願いたします。

○浅香会長 それでは、ただいまの事務局の説明につきまして、各委員からご質問等があれば、挙手またはご発声でお知らせしていただきたいと思います。

○山代委員 15ページの優しさと思いやりのバリアフリーの推進についてです。

こちらは公共施設のバリアフリーチェックを実施する見通しということで、札幌市がどこかの機関に打診して来ていただいた障がい者の方が実際にバリアフリーチェックをするとお聞きしたのですけれども、例えば、札幌市のホームページなどで公募をして、いろいろな障がいを持った方に参加してもらおうという機能があればいいと思います。

次に、16ページです。

先日、僕は、余市に1人で出かけたと思って、JRに乗ろうと思ったのですけれども、JR余市駅はバリアフリーになっていなくて、人もいないから無理だということで、JRは駄目だったのです。中央バスが走っているので、中央バスに確認したところ、車椅子で利用可能ですと言いつつも、車椅子のまま乗ることができないと、車椅子を預かるので、階段を登っていってくれというような対応をされまして、車椅子の人が1人で地方に出かけるということがなかなか困難であることが分かったのです。ですから、ノンステップバスと言いつつも、機能していない気がします。これが2点目です。

もう一点が17ページのユニバーサルデザインタクシー導入費補助事業で、恐らく、ほとんどのタクシー会社がジャパンタクシーと言われる小さめのワンボックスのタクシーを導入しているかと思うのですが、これは、車椅子の人が手を挙げてもなかなか乗せてくれないということが現状です。日北交通のハロータクシーという黄色いタクシーがあるので、あそこは何台か車椅子のまま後ろから乗車できるタクシーを導入していて、これをもう少し推進していただけると、介護タクシーを使わずに移動が楽になるのではないかと思います。

最後に、19ページです。

地下鉄は、徐々にスロープがついてくるのではないかと思います。路面電車で、車椅子が乗れるポラリスに乗れたとしても、全部の駅で降りられるとは限らないのです。というのは、ホームの幅がすごく狭くて、車椅子で降りたとしても曲がれない、そして、冬は特にそうなのですが、曲がって降りられたとしても、道路の横断歩道のところの雪がひ

どくて、1人では移動できないという状況に陥っています。ですから、路面電車を降りたところの横断歩道と歩道の辺りをロードヒーティングにするということが現実的かどうか分からないのですけれども、雪対策を進めていただきたいという感想です。

○事務局（布施事業計画担当係長） まず、1点目の15ページの下の方の公共施設のバリアフリーチェックに関するご意見ですが、現時点では、福祉のまちづくり推進会議という会議がございまして、そちらでバリアフリーチェックという制度をやっています。実際には、身体障害者福祉協会と、高齢者の団体である老人クラブ連合会から当事者の方を推薦していただいて、その方々にバリアフリーのチェックを行っていただいているというような立てつけで事業を実施しております。

その委員を公募できないかというご意見をいただきましたので、これについては、ご意見として頂戴いたしまして、今後、どのような形でやっていくのがよいのか、やり方については検討していきたいと考えております。

続いて、16ページの交通バリアフリー推進事業の関係で、車椅子の利用者が地方に1人で行くことはなかなか難しいというお話と、17ページのユニバーサルデザインタクシーの関係で、手を挙げてもらってもなかなか乗せてくれないことがあるといったご意見と、19ページの路面電車の問題で、乗れたとしても降りたときに曲がれない、雪が多くて移動ができなくなることがあるというご意見をいただきました。これらにつきましては、関係する部署に共有させていただきたいと考えております。

○山代委員 もう一つありまして、17ページの下の方の歩道バリアフリー整備事業です。

札幌市内でも歩道をいろいろ整備されていると思いますが、横断歩道を渡って歩道に乗り上げる際の縁石が斜めに低くなっていますけれども、車道と歩道の間結構な段差ができています。これは車椅子の方だけではなく、不自由を感じている方がいらっしゃるのではないかと思います。ほかの障がいを抱えている方や介護されている方で、歩道についてお気づきの点があったら、皆さんで共有していただければと思います。よろしくお願ひします。

○浅香会長 歩車道の段差の件について、各委員の団体等の会員から何か意見は出ておりませんか。

○長江委員 私どもの団体は知的ですけれども、それとは関係なく、私自身が歩いていて歩道は歩きづらいと思っています。

たまに老人の方が車道を歩いているのを見たときに、何で車道を歩くのかなと思っていました。私はあまり歩かないタイプだったのですけれども、最近歩くようにしたら、北海道、札幌の場合は、やはり雪があるため、歩道自体が斜めになっているからか、すごく歩きづらい形で、そこを歩くことが大変だったのです。歩くのが大変ということは、車椅子の人も真っすぐに行こうと思っても斜めに行ってしまうのかなと思いました。知的には関係ないのですけれども、自分的には歩道はすごく歩きづらいと感じたので、多分、車椅子の方もそういう形では大変ご苦労されているのかなと思いました。

○浅香会長 そのほか、いかがでしょうか。

○山代委員 歩道についてですけれども、タイル張りの場所があるのです。例えば、裁判所の周りなどはタイルがぼろぼろとすごく剥がれていて、車椅子で前を見て走っているつもりですけれども、なかなか気づけないときがあって、いきなりがたと落ちるような感じになります。車椅子だったら転倒のおそれはないのですけれども、つえをついた方や目の不自由な方は結構危険が伴うのかなと思います。

これは、陥没しているなどは札幌市の土木センターにすぐに対応していただけるのですけれども、そういう段差があるというのは、なかなか対応していただけないということが現状です。

気づいている方もいらっしゃると思うのですけれども、札幌駅南口のところでアスファルトで結構なスロープがついているのはご覧になりましたか。あそこは、僕が2年がかりで、ようやくやってもらったのです。そういったことがあるので、危険なところは、迅速に修繕していただきたいと思います。

○浅香会長 貴重なご意見だと思います。

山代委員のほかに、私も日常生活の半分近くは車椅子で生活しているのですけれども、横断歩道がインターロッキングになっていて、がたがたがたがたといいながら渡っています。本当は天ぷら舗装が一番いいのだと札幌市に申し入れてはいるのですけれども、市道、道道、国道の分かれ目でうまく連携がされていないような気がしています。いかに車椅子に乗ったときのがたがたがたがたが、たとえ坂道ではなくても平地でも大変だということが、一回乗ってみると言いたいぐらい感じています。

多分、山内委員のところも、お子さんが車椅子ですね。

○山内委員 私の子どもたちもみんな車椅子なので、山代委員がお話ししてくれたことは、本当にそうだなと思って聞いていました。

親御さんから来る道に関しての話は、ここの土木課に言っていきましょうなど、いろいろなお話をします。さらに、私の娘の車椅子が壊れたまではいかなかったのですけれども、バネのところがおかしくなって、やはり本人にとっては足だから出られなくなったことがありました。自分も日々のいろいろなことがあって、そこは何げなく素通りしていましたけれども、今日、改めて、このあたりはみんなと言っていかなければいけないことだと思いました。ありがとうございました。

○浅香会長 自分の身に起こらないと気づきというふうになかなか感じないと思われまので、今の山代委員の意見も含めて、この会を通じて建設局にもまた働きかけていきたいと思しますので、よろしくをお願いします。

補足ですけれども、1点目のバリアフリーチェックはどういう団体がしているのかということですが、私どもの身障協会と老人クラブ連合会でやらせていただいています。私どもの団体は八つの障がい区分、肢体不自由、車椅子の方もいるし、目の不自由な方、耳の不自由な方、オストメイトの方、失語症の方、もろもろの種別の障がい団体に加盟してい

ただいているものですから、少なくともその団体から1名以上は出席していただいて、現場でバリアフリーチェックをしていただいているのが実情です。

2点目のバスは、余市駅がバリアフリーになっていないということで、以前は、3,000人以上の利用がない駅でないとエレベーターをつける義務がなかったのですが、このたび、2,000人に基準が下がりまして、余市は観光地ですので、ぜひ、JRにも働きかけていきたいと思っています。

今、登別駅は改修していてエレベーターをつけることになったのですが、あそこも実際は2,000人も行っていないのです。でも、インバウンドの方は公共交通機関を使う方が多いようで、この間、電車に乗って通った後で気がついてJRに確認したら、何十メートルかずらしてエレベーター付きの駅舎をまるっきり作り直しているというふうに言っていましたので、余市駅も同様かなと感じたところです。

山代委員、今のような感じでどうですか。

○山代委員 ありがとうございます。

○浅香会長 ほかにございませんか。

○高柳委員 107ページの事業者の見守りというところで、今日、大石委員も参加していますけれども、2か月か3か月前に私どもで会議をやったときには人数はこんなものではなかったので、実情と合っていないと思うのです。その中で、事業者が発見して、警察なりいろいろ手を尽くして、どうしても命を守れなかったという人が、たしか毎年十数人にいたような気がするので、社会福祉協議会との数値が合わないような気がします。

そこら辺は、大石委員に聞いてもらえれば分かると思います。

○浅香会長 大石委員、何か助言していただけるようなことがあればお願いします。

○大石委員 前にお話ししていたのは高齢者のひとり暮らしの見守りのお話だったのではないかと思うのですけれども、それとの関係でしょうか。

○高柳委員 社会福祉協議会で募集している事業者、例えば、クリーニング屋さんや道新会札幌八日会など、そういう27業者でしたか。これは、そのことを言っているのではないかと思っていたのですけれども、どうですか。

だから、実情は、僕たちが会議で聞いている数字とこの数字とは相当離れているような気がします。

○浅香会長 事務局、この数字は障がい者に限った数字ですか。

○事務局（布施事業計画担当係長） これについては、107ページの上の事業内容のところにも書いているのですけれども、見守り協定の締結を推進してということで、その協定をした事業者からの通報の件数を集計しているものですので、恐らく、その関係で、数値に乖離があるのかと思います。あくまでも、ここには、協定を締結した事業者からの通報件数だけを集計して掲載しているという状況でございます。

○高柳委員 何となく、分かるようで分からないのですが、ここら辺のことは、社会福祉協議会の大石委員とも連絡し合って、もう少し僕たちも調べてみたいと思います。

○大石委員 確認させていただきます。

○浅香会長 よろしく申し上げます。

多分、高柳委員がおっしゃるとおり、ひとり暮らしの高齢者も含めると膨大な数字になるのではないかと私も感じています。障がい者だけにしても少ないのかなと感じますけれども、大石委員に調べていただいて、後日でも結構ですので、お知らせしていただければと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

○加藤委員 実は、私は、9月で退職してしまして、楡の会の人間ではないのですけれども、次の方が決まるまでということで私が委員をさせていただいているということを皆さんにお知らせしておきます。

今のご報告の中で、1点の質問と、2点の感想といいますか、意見をお伝えさせていただければと思います。

質問は、98ページに成人の方に学習の場を提供されているとあって、これは前からあったと思うのですが、多分、私が会議の資料をいただく中で見落としていたのだと思うのですが、一般のお子さんだと、専門学校や大学に行ったりという時間があるのですが、障がいの方々は、やはり成人期に移行するまでの青年の時代に、仲間と切磋琢磨したり、社会のマナーを学んだり、文化的な活動に触れたりという機会がなかなかないまま、すぐに就労や生活介護などというところに行くのです。

ですから、この取組は非常にいいと思っておりますけれども、意外と身近にそういうものを利用していますという方がいらっしゃらないのです。札幌市手をつなぐ育成会もやっていますと書いてあって、今、委員の中に豊明高等支援学校の校長先生もいらっしゃるのです、ぜひこの辺の様子を教えていただければということと、そういうものがあると分かったら、通わせたい、利用させたいという方もいらっしゃるかと思うので、宣伝をどのようにされているのかを教えていただければというのが1点です。

意見としては、避難・防災の計画に関して、各分野でいろいろと取組をされているのですけれども、楡の会にいて、地域の防災訓練に参加するという機会もあまりなかったのです。ただ、いざ災害に遭って障がいのある方が避難するとなると、かなりいろいろな準備が必要だったり、地域の方々にお手伝いしていただかなければいけない場面があるかと思うのです。ただ、日常的に地域の中で要避難者の方々とつながる場面というのが意外とないという実感がありまして、特に、地域の入所施設や、楡の会のような割と大きな社会福祉法人でやっているところのスタッフ、障がいのある方々を専門にやっている人たちをうまく地域の防災に活用していただける仕組みができないものかと思っておりました。

地域の自立支援協議会というものは、どうしても障がいのある方々の団体で構成されていますので、地域の自立支援協議会と福まちなどで、年に1回でもいいので、防災ということに関して意見交換会などの企画ができないものか、かねてから思っているところでした。

本当に、いろいろな取組をやっていて、メニューがものすごく充実してきたということと、札幌市の障がい福祉の計画はとても立派だし、それに目がけて推進してきたということは、本当にありがたいと思っているのですけれども、いろいろなメニューができた中で、今度はネットワークが大事になってくるのではないかと考えています。防災というものは、やはり起きてしまってからでは、もうなかなか動きが取れないので、日頃から地域づくりをしながら、障がいの方々や地域の方々が交流してお互いを知り合うということの一つのチャンスになるのではないかと考えておりました。ぜひ障がいの方々や地域の方々がつながるといふ場面を、こういう仕事をしている者たちが間をつなげるといいなと思っていますので、活用していただける方法がないものかと思っていますところでは。

もう一つは、相談支援の事業所が増えてはいるのですけれども、計画相談をつくることだけに追われていて、実際にその間をつなぐというような仕事ができているのかというところがあるのです。ですから、各生活介護や就労支援の中にサービス管理責任者という人たちがいて、そういうケースワークをすることになっているかと思うのですけれども、なかなかそこに至っていないと思います。そういうサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者、医療的ケア児コーディネーターなどが機能としてはあるのですけれども、これがなかなかうまく機能していない感じがあるので、そうした人たちが会してしっかり勉強できる機会をつくってもらえたらというものが一つです。

○浅香会長 二つ目、三つ目は、意見として、これから行政と話めたいと思います。

一つ目につきまして、豊明高等支援学校の益満委員にご出席していただいていますので、PRも兼ねて、どのような内容でやっていらっしゃるか、お聞かせいただければと思います。

○益満委員 今、ご質問がありましたので、豊明高等支援学校の札幌トエ・ピラ会成人学級のことについて、少しお話しさせていただきます。

豊明高等支援学校は、できて47年がたちました。先日、トエ・ピラ会のボーリング大会があったのですけれども、47回生もいるので、回生の若い卒業生と古い卒業生の2回に分けてボーリングをしたのですが、私は、2回とも行かせていただきました。最高齢の方は、私と同じぐらいの年齢で56歳の方でした。お話を聞くと、福祉事業所で働いて、札幌トエ・ピラ会を楽しみにしていますということをお伝えしていただきました。社会で働いている豊明高等支援学校の卒業生が、社会の中で生活し、働き、生きがいを持って生活していらっしゃるのだなということを改めて感じたところです。

以前は、札幌トエ・ピラ会は、年間10回ぐらい、月に1回ぐらいのペースでやっていたのですけれども、コロナ禍を経て回数を減らして、現在は4回にしております。全て日曜日の開催ですが、4月、5月の総会には卒業生はみんな集まっていいということで、学校の体育館に集まっていただいて、今年の運営や、後半に近況報告を持ってきて、久しぶりに会う仲間と近況報告などをしています。それから、先ほどお話ししたボーリング、映画上映をしているはずで、それと、新年会というようなことで、4回組んでいます。

私は、かつて豊明高等支援学校で教員をやっていたのですが、4月に久しぶりに戻ってまいりましたので、今年の計画の全てが頭に入っていないんですが、そのような4回になっています。

以前はゲームや調理などにも取り組んでいた回もあったのですが、密を避けようということ、それから、働き方改革上、日曜日に職員が卒業生のために学校に来るということがなかなか説明がつかないところがあって、減らしてきたという経緯があるようです。ただ、今、お話のあったとおり、これには大変深い意義もあると思いますので、基本的にはこれ以上減らさない、もしくは、コロナ前に少しずつ戻していったほうがいいのではないかという意見もありますので、校内で検討しながら進めているところです。

それから、私は、みなみの杜高等支援学校に教頭でいたことがありますので、お話ししますが、こちらは名前が変わってサタデースクールになっていますけれども、みなみの杜高等支援学校は学校にカフェを併設しておりますので、日常からカフェのパンを購入しに来る卒業生もいて、久しぶりに学校に来て懐かしいと言ってくれる方がいます。できてまだ8年なので、まだまだ若い学校ですけれども、きっとそこが卒業生の交流の場にもなっていくのかなと考えているところです。

○浅香会長 長江委員からもごさいませんか。

○長江委員 札幌市手をつなぐ育成会で委託を受けていまして、この事業に関しては育成会の会員ではなくても参加できます。

ただ、昨年参加された方には案内を送りますけれども、そのほかにどういう募集の方法があるか、私は分からないのです。去年参加した方がまた来るという感じだったので、SNSを使うなどして拡大したいと思います。

札幌市手をつなぐ育成会自体も、やはりコロナ禍前はバスで外に出かけるなど、いろいろしていたのですが、コロナ禍では、完全オンライン、プラス、物づくりのDVDを送って、つくってもらって、感想をもらうということを2年間、閉じないでやる形を続けています。

今年は、豊明高等支援学校と一緒に、ボーリングやモルックをやったり、本当は11月に選挙の体験会をやる予定だったので、今回の選挙の関係があって、2月に移りました。それはずっと選管と行っているもので、選挙会場のようにして選挙体験をやっていただいて、支援カードの使い方なども学習していただいています。

やはり外出したり、いろいろなことをしたい部分、増やしたい部分もあるのですが、何せお手伝いの方々がなかなか少なく、回数の半分が各自でつくっていただく制作の形にはなっているのですが、毎年、必ず同じものではない、いろいろなものをつくっていかうと思って頑張っています。

知らない方も多と思うので、もう少しアピールの方法を考えたいと思います。

○浅香会長 そのほかに、ご意見はありませんか。

○山代委員 2点、質問があります。

障害者手帳を持っている人だと、タクシー券やガソリン券などの交通費の助成を受けられるのですけれども、1級、2級の場合、タクシー券だと3万9,000円で、ガソリン券だと3万円で、なぜこの差があるのか教えてほしいというのが1点です。

それと、105ページで、災害時の避難等について、町内会などに助言を行っているとして書いてあるのですが、第1に、避難をするとすれば、小学校や中学校の体育館になるかと思うのですけれども、そこでも入り切れないなどのある一定の事情があれば、町内会館も使わざるを得ないのかと思います。

それで、町内会館は、結構古いところが多くて、バリアフリーになっていないのです。僕のところは石山七区町内会館ですけれども、段差がすごく高くて、和式トイレしかないという状況です。

このバリアフリー化について、札幌市で何か対策などがあれば、教えていただきたいと思います。

○事務局(立野障がい福祉課長) 交通費助成の関係は私が担当しているのですけれども、ガソリン券とタクシー券の金額の違いについて、私も今すぐこの場でその差がどうして出ているかは分からないのですけれども、交通費助成制度は、それ以外にも、福祉乗車証というのでしょうか、JRは乗れませんけれども、重度の方であれば地下鉄とバスに限度額がなく乗れるというものと、中度の方は限度額があってチャージしていただいていたもの3種類がございまして、それぞれチャージの金額が実は違います。

こちらの交通費助成の中でも、公共交通機関の助成制度が最初にスタートしており、ガソリン券とタクシー券は、導入時期がそれぞれ異なっておりまして、そのときに金額設定をしているのです。交通行政につきましても、ポイントの率が変わったときに少し金額を上げたり、今、はっきり覚えていませんけれども、タクシーも少し金額が増えたりしているはずなのです。その根拠が何に基づいてやっているかということは、私も把握できていませんので、確認してみたいと思いますけれども、明確な根拠というのはひよっとしたらないのかなと思います。

答えになっていないかもしれないのですけれども、過去に決めたときの金額が根拠になっていると考えております。

○事務局(布施事業計画担当係長) 105ページの災害時の関係ですけれども、仮に、町内会館が避難所になったときに、そこがバリアフリー化されていない場合が多い、それについてどう考えているのかでございまして。

町内会館のバリアフリー化という観点で申し上げますと、これについては、町内会館を所管する部署が市民文化局になりまして、そちらに確認する必要があるのですけれども、先ほども話題に出た私どものバリアフリーチェックというものは2,000平米以上の施設が対象になります。それに比べて、町内会館はかなり小規模となりますので、恐らく、バリアフリーチェックの対象外なのかなというところで、そこが私ども障がい福祉課の観点から言うと、バリアフリーチェックという意味でチェックがなされていないというところ

ろです。

あとは、市民文化局としてどう考えているのかということは、確認してみたいと思います。

○浅香会長 公共施設であっても、2,000平米以上でないとバリアフリーチェックの対象にならないことになっていきますけれども、近年は2,000平米以下のものについてもバリアフリー化を札幌市も進めておりますので、保健福祉局からも市民文化局のほうに、改修なり、新規に建てる場合でも、2,000平米を超えるということは地区センター以外はあまり考えられないと思いますが、申入れをしていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そのほか、いかがでしょうか。

○上田委員 86ページの下に、障がい者就労支援事業ということで、面接会と入っているのですけれども、今年については、11月14日木曜日の午後に、札幌コンベンションセンターで午後4時までやる予定です。企業数は61社で、求人数が114件です。もしも興味のある方がいらっしゃいましたら見に来ていただければと思います。企業側は面接が基本ですが、面接していない時間帯はいろいろな方とお話ししていただくことがありますと企業に伝えていますので、来ていただいた中で、企業の方とお話しできる時間があればと思います。

ちなみに、情報につきましては、札幌にある三つのハローワークでホームページを立ち上げておまして、平仮名で「みどりちゃんねる」と検索していただくと、ハローワーク札幌のみどりのコーナーのホームページが出てきます。そちらに面接会の特設ページを設けておしますので、見ていただければと思います。お願ひいたします。

○浅香会長 貴重なPRをどうもありがとうございました。

そのほか、いかがでしょうか。

○近藤委員 多分、この資料の中のどこかには書いてあるのだらうと思うのですが、即座に探せないの、聞いたほうが早いと思ひて、お時間をお借りしました。

大分前にも何回か質問していることではあるのですけれども、雇用と福祉の連携による重度障がい者の特別事業で、通勤介助と職場介助というものが、多分、札幌市も令和4年度からスタートしていると思うのですけれども、令和6年度の時点で、何人の利用者がいて、その利用者の中で視覚障がい者が何人なのかを教えていただきたいと思ひまして、ご質問します。

○事務局（皆越就労・相談支援担当係長） 今、近藤委員からご質問いただきました重度障がい者の就労支援事業でございますが、細かい件数は手持ちがないものですからお伝えできないところではあるのですが、年度当初から申請件数はずっと右肩で増えておまして、大体30件前後の申請と支給決定をしております。

大体、数か月に1件、2件ほどの相談が来ているような状況でございます。

○浅香会長 30件ぐらいのうち、視覚障がいの方がどのぐらいいるかということは把握

してないですか。

○事務局（皆越就労・相談支援担当係長） 割合までは分からないのですが、視覚障がいの方も何件かご利用されております。いわゆるマッサージの業務をされている方が多いのですけれども、そのようなところへの同行援護の支援は実施しております。

○浅香会長 それでは、一旦、次に進めさせていただきます。

議題（２）の報告事項、障害者就労施設等からの物品等の優先調達について、事務局より資料２に基づいて説明をお願いいたします。

○事務局（皆越就労・相談支援担当係長） 私から、障がい者就労施設等からの物品等の優先調達についてご報告させていただきます。

資料２－１の令和５年度札幌市における障がい者就労施設等からの物品等の調達実績について、下にございます表のとおり、まとめております。

令和５年度につきましては、物品の調達額が３，６２９万６，９６４円でございます。役務の調達につきましては、２億９，９５２万８，６７４円となっており、合計で３億３，５８２万５，６３８円となりました。

令和５年度の調達目標は、令和４年度の最終調達実績以上とするとしておりまして、令和４年度の最終調達額は、３億５，７２４万４，９４９円でしたので、２，１００万円ほど下回る結果となっております。

それによりまして、昨年度の調達内容を分析しましたところ、主な原因としましては、デジタル化の進展に伴うペーパーレス化などにより、印刷物の発注が大きく減少しております。このほか、清掃などの業務につきましては、施設の管理と一体的に民間企業等へ発注するという動きも見られ、今後もこうした流れが続くものと考えております。

また、新型コロナウイルス感染症が５類に移行したことにより、今年度は、施設の消毒や衛生用品の配送などの役務の発注がなくなったことも影響しております。

次に、１枚おめくりいただきまして、資料２－２をご覧ください。

令和６年度札幌市障がい者就労施設等からの物品調達等の目標ですが、１番の目標額に記載しておりますとおり、令和６年度は、令和５年度の最終調達額以上を目標としております。

令和元年度に調達実績額が３億円を超え、右肩上がり調達額が伸びてきたところがございますが、昨年度の調達状況を考えますと、デジタル化の進展などの時代の変化もあり、今後の調達目標については、検討が必要であると考えております。

特に、昨年度の調達実績の減少を受けまして、局長職をはじめとした各階層の会議で、全庁的に優先調達を推進するということを確認しておりますとともに、法の制定から１０年余りが経過しておりますことから、全部局に対して、改めて優先調達の趣旨や対象施設、契約方法の実務、そして、元気ジョブアウトソーシングセンターの活用等について、情報共有を図っております。

続いて、もう一枚おめくりいただきまして、資料２－３をご覧ください。

令和6年度札幌市障がい者就労施設等からの物品等の調達方針概要版でございます。

こちらにつきましては、令和5年度の調達方針からの大きな変更点はございません。

令和6年度以降につきましては、先ほどの事情もございまして、来年1月開催予定の庁内関係職員で構成します優先調達推進会議にて検討することとなっております。

私からの報告は、以上となります。

○浅香会長 それでは、ただいまの事務局からの説明につきまして、各委員からご質問等があれば、挙手、お名前を述べて、お願いしたいと思います。

○菅原委員 調達について、これは目標値の設定が金額での設定になっているのですが、昨今、物価上昇や、先ほどおっしゃられたデジタル化といったいろいろな要因がはらんでくるのですが、私ども札幌市から指定管理をいただいている事業所でも、消耗品代などが非常に上がっていることがあって、なるべく安く購入したいということも事業者としては考えているところです。

障がい者の事業所の施設は小規模で行っているところが多いですから、どうしても価格で負けてしまうこともあると思うのです。そこを押して、障がい者の事業所からなるべく物品や役務をやっていきたくて私どもも考えておりますが、この目標値を金額で設定することがいかなものかと単純に考えております。例えば、札幌市の物品調達の全体の金額に対する割合がどの程度なのかといった数値の捉え方ということも一つ考慮されたいかがかと思いました。

一つの意見です。よろしく申し上げます。

○事務局（皆越就労・相談支援担当係長） ご意見として承りまして、次年度の開催の調達会議の中でも検討を進めていきたいと思っております。

ありがとうございます。

○浅香会長 そのほか、いかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○浅香会長 なければ、議第（1）を途中で打ち切りましたので、議題（1）も含めて全体を通して、何かもう一言質問したいということがあれば、承りたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○山内委員 意見ですが、10ページのヘルプマークの件は、本当にたくさん配布されるようになって、この頃はまちを歩いていてもすぐ目につくようになって、いいなと思って見えています。

ただ、この間、新聞にも載っていましたが、このマークは、もともとは目に見えない障がいということで考えられて、私どもの肢体不自由の人たちもつけています。その中で、私どもの会員で高校に通う子がいまして、つえで歩いているのですが、たまたまバスに乗っていてつえがないときに、ヘルプマークをつけていたら疑われたらしいのです。

それで、車椅子マークをつけると身体障がいなどというふうに、マークのほかにもう一つ種別などがついたらいいなということを言われました。その子は、自分でつくって貼って

いるみたいです。

これだけ配布されるようになって、みんなにも認知していただいているので、皆さんがそれをつける必要はないのですけれども、何か柔軟にそういうものもあってもいいのかなど、会員たちとも話をしていたものですから、一つの意見として言わせていただきました。

○浅香会長 ヘルプマークは、東京都で最初にできて、基本的には、デザインの的に独自には変更できないのですよね。

○山内委員 基本はそのまま、その横に、ステッカーでもいいから、例えば、身体、知的、盲の方などが見えるようにあったらいいなど。

○浅香会長 表はそのまま、裏にそのシールを貼るなどですね。

○山内委員 私どもの子どもたちにも当事者が出てきていまして、そういう話をしていました。

ちょうど、どこかの高校生のことが新聞記事になっていたもので、そういうふうに皆さんが意識してくれるようになったのだなと思って、それなら、そういうところもプラスしていくといいかなと思いました。

○浅香会長 私も、この間、長江委員と全スポ大会に行ったときに、わざと空港で搭乗口のお姉さんにヘルプマークが見えるようにリュックサックを置いて座っていたら、歩いて来ていただいて、優先搭乗をなさいますかと優しく声をかけられて、助かっています。

そのほか、いかがでしょうか。

○鈴木委員 70ページのところですけれども、難病に関係する在宅人工呼吸器使用患者支援事業という事業がありまして、こちらは札幌市保健所で担当されているものですが、私が過去にこの会議を傍聴させていただいたときにも、実績として利用者数が0名と低調な利用の数がずっと続いていて、これはいかがなものかというようなご質問が出ていたこともあったかと思えます。

在宅で人工呼吸器を使用している難病患者の診療報酬で定めた回数とは別に設けられた訪問看護ということで、私どももいろいろな相談を受ける中で、訪問看護は規定回数以上はなかなか入れないなどといったお困りの声を聞くこともありまして、こういった支援事業に結びつけることができないのかということも考えておりました。

この事業自体は、札幌だけではなく、他県でも実施されている事業だと思うのですが、私どもは、他県の実績などと比較して見たことはなかったのですが、改めて、この事業の周知の仕方などがどうなっているのかが分かりましたら、また後日でも構いませんので、教えていただければと思います。よろしく願いいたします。

○浅香会長 今の件につきまして、後日でも結構ですので、教えていただければと思います。

それでは、そろそろ時間も来ましたけれども、石山委員からございませんか。

○石山委員 先ほど、山代委員から札幌市の障がい者の交通費助成について問いがあったと思うのですが、お答えは分からない部分もあると思うので、意見として言わせて

いただきたいと思います。

精神障がい者の場合は、1級から3級まで等級があるのですけれども、やはり格差があるのです。重度と言われる1級、2級は高く、中度と言われる3級の方は低いという格差があって、そこはなぜ格差があるのかというところは、私もいまでもって不明です。1級、2級が使える福祉乗車証というものがあるのですけれども、3級は使えない、その格差など、また機会があったらお話しさせていただきたいです。そういう要求もしていますけれども、一つ手短かに意見でした。よろしくお願いします。

○浅香会長 身体でも、1級から3級までは全額補助、4級から6級は半額補助という形で、どこかで線引きをされているのが実情です。そういう実情的なことを知ることも大切だと思いますので、何かあれば、身体はどう、精神はどうという形で教えていただければと思います。

○事務局（立野障がい福祉課長） 今、石山委員から精神障がいの方の格差というお話がありまして、多分、カードが使えないということだと思うのですけれども、この理由は、石山委員もご存じだと思いますけれども、バスの割引について、身体と知的については、半額の事業者の交通費助成が独自で入っているのですけれども、精神の方の場合は、民間のバス事業者の割引がないのです。その関係で、通常は半額となるのですけれども、精神の方は半額になっていないので、仕組み上、カードをどうしても使うことができないことになっておりまして、地下鉄の場合は、一回一回、乗車券を買っていただいております。これは札幌市の事情であり、大変ご不便をおかけしているところであるのですけれども、そういったことがございます。

バス事業者において、精神障がい者の方への割引が入っていないことにつきましては、私たちも非常に課題だと考えておりまして、毎年、北海道バス協会や各バス事業者に対して、ぜひ割引制度を導入してほしいということで北海道と一緒に要望活動をしておりまして、ご存じだと思いますけれども、JRは、来年4月から、精神障がい者の方も知的の方と身体の方と同じように割引制度が全国で導入されることになりましたので、ぜひバス事業者の皆さんにも、精神障がい者の方も同じように割引を導入していただけるように、札幌市としても今後も要請活動を続けていきたいと思っておりますので、ご理解をいただければと思います。

○浅香会長 行政からも、強く要請活動を続けていただき、できるだけ早く実現していただければと思っております。

それでは、中失協会の花田委員、何か、意見なり、感想なり、お願いします。

○花田委員 先ほどのヘルプマークの件で、私ども聴覚障がいの方は、見ても本当に聴覚障がいと分からないので、ヘルプマークをただぶら下げても変に見られることもあるので、私は、大体、耳マークのシールを貼っております。全員が貼っているわけではないのですけれども、今、このように進めてやっております。

○浅香会長 皆さん、やはり工夫して活用されているのだと思います。

それでは、道立心身障害者総合相談所の人見委員、お願いします。

○人見委員 感想になります。

私どもも、札幌市同様に、手帳の認定ということでたくさん書類を扱っていくのですが、今日、お話をお聞きしていると、やはりそれぞれの方に、まだまだ世の中でいろいろな困難があるのだなと思いました。適正にしっかりしたサポートができるように、できるだけ温かい目で書類をこれからもしっかり見ていきたいと思ひますし、ご指導いただければと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。

○浅香会長 本日は、いろいろな意見や本心をざっくばらんに言っていただいて、本当に助かりました。進行も意見が出ないとなかなか大変ですけれども、抑えるのに大変なぐらい皆さんからいろいろな意見を頂戴して、ありがたく思っております。

それでは、本日予定しておりました議題は、全て終了いたしました。

終わってから、何かお気づきの点があれば、障がい福祉課に、文書なり電話で、この点はどうでしたかという形でお尋ね、ご質問していただければありがたいと思ひます。

それでは、特段なければ、以上をもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。

限られた時間の中、本当にいろいろなご意見をいただきまして、ありがとうございました。

それでは、マイクを事務局にお返しいたします。

3. 閉 会

○事務局（高松企画調整担当課長） 浅香会長、円滑なご進行をありがとうございました。

また、委員の皆様、熱心にご議論いただき、誠にありがとうございました。

それでは、これもちまして、令和6年度第1回札幌市障がい者施策推進審議会を終了いたします。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上